

「戦争させない」大きなうねりを富山から！



「戦争への道」は歩まない！

1941年12月8日、日本軍は、ハワイ・オアフ島の米軍基地を奇襲攻撃しました。これは太平洋戦争の始まりで、米国においては、「リメンバー パールハーバー」（真珠湾を忘れるな）と今も語り継がれています。襲撃翌日、米大統領ルーズベルトは、日本に宣戦布告し、圧倒的な国力で真珠湾の打撃から巻き返し、3年半余りで日本を無条件降伏に追い込みました。終戦直前に広島と長崎に原子爆弾が投下された惨状は筆舌に尽くしがたいものです。21万人の尊い命が奪われ、15万人以上が負傷、いまま原爆の後遺症に苦しんでいる人々がいます。

殺すな！ 武力で平和は作れない！

2022年2月、ロシアがウクライナを侵略し、子どもを含む多くの市民が殺されました。更に本年10月には、イスラエルによるパレスチナ・ガザ地区への無差別攻撃が始まりました。ハマスによるイスラエルへの襲撃が発端ですが、学校や病院までも襲撃するという国際法違反の行為は許されません。日本政府は、平和憲法を持つ国として、毅然と「停戦」の態度を示し、仲裁に向かうべきです。

八の日行動

日本は1941年12月8日、太平洋戦争に突入しました。敗戦後、この日を「反戦・平和の日」として、街頭で宣伝活動をしています。3月8日（平和・国際女性デー）、8月8日（広島・長崎の被爆・敗戦）と年3回行っています。

憲法9条は「戦争をしない」誓い

長い戦争の反省から、日本は「戦争の放棄」「戦力の不保持」「交戦権の否認」を全世界に向けて約束しました。

岸田政権は、2022年12月、国会を無視し「安保3文書」を改訂して敵基地攻撃能力という先制攻撃力を保有すると「閣議決定」しました。23年国会では、防衛費を向う5年間で43兆円にする特措法や軍需産業を支援する法律を制定しました。

今こそ、私たちは平和憲法を生かし、「戦争させない」大きなうねりを作って行かなくてはなりません。

軍拡競争よりも「平和外交」を！

政府は「ロシアのウクライナ侵略」「台湾有事」「北朝鮮のミサイル発射」などの言葉で、日本の安全保障の悪化を主張し国民の不安をあおっています。軍事力を高めるということを理由にし、米国から型式の古い戦闘機を買わされたりもしています。こうして、国民の生活を顧みることなく、私たちの税金が際限なく使われていくのです。防衛予算の倍増は、国民生活に打撃を与えます。軍備は「抑止力」とも言われますが、相手国を挑発して不安を持たせるだけで、「衝突のリスク」を高めることにしかありません。国同士の「人的平和外交」こそ、大事なのです。

戦争への道を許さない富山女の連絡会

富山県平和運動センター・I女性会議富山県本部
富山市奥田新町8-1 ボルアートとやま10階 TEL=076-431-8756
[2023年 12月 8日]